

困り者のカミキリムシたち

私たちの身の周りにはたくさんの昆虫が生活しています。森林はもちろん、街路樹や庭、家の中など、いたる所で見つけることができます。

ここでは、皆さんに見つけて欲しい海外からやってきた困り者のカミキリムシを2種類紹介します。

クビアカツヤカミキリ（写真1a）の幼虫は主にサクラやウメ、モモなどのバラ科の樹木の内部を食い荒らし、弱らせ、枯死を引き起こすこともあります。木の幹に「ひき肉」のような木くずを見つけたら、それはクビアカツヤカミキリの幼虫のフラス（木くずと排せつ物が混ざったもの）かもしれません（写真1b）。成虫の外見は、赤い、首のように見える胸が特徴です。関東圏では、平成25年に埼玉県で確認され、千葉県でも令和6年に初めて確認されています。

ツヤハダゴマダラカミキリは、在来種のゴマダラカミキリとよく似ています。見分けるポイントは写真2のとおりです。ゴマダラカミキリと比較して、ツヤハダゴマダラカミキリは食害する対象樹種が幅広く、広葉樹ならなんでも食べてしまいます。その被害は非常に大きく、国際自然保護連合が定める「世界の侵略的外来種ワースト100」にもランクイン。令和4年に本県北西部でも確認されています。

これら2種類のカミキリムシは、「生態系等に被害を及ぼす、又は及ぼすおそれがある」特定外来生物に指定されています（外来生物法第2条第1項）。現時点で、本県では、森林以外の限られた地域でしか確認されていませんが、生息域が森林に広がってしまえば、私たちが慣れ親しんだ生態系が大きく変わってしまうかも知れません。生息域を広げないためには、早期発見が重要で、知識ある地域住民の方が侵入したばかりの特定外来生物を見つけた例もあります。まずは多くの方に彼らの存在を知ってもらう必要が

あります。

特定外来生物は外来生物法により生きた状態での移動が禁じられていますので、もし、これらのカミキリムシを県内で発見した場合、千葉県自然保護課生物多様性センターまたは地元自治体窓口へ速やかに通報してください。万一捕まえてしまった場合には、踏むか叩くなどにより、必ずその場で殺処分してください。

いずれのカミキリムシも、自分の意志で日本に來たのではなく、人間が持ち込んでしまいました。かわいそうな気もしますが、絶妙なバランスで保たれている本来の生態系を守るためには殺すのも必要なことです。

身近な樹木から登山道沿いの木々まで、注意して見ていただければと思います。明日、あなたの隣に困り者のカミキリムシが現れるかも…

（研究員 田邊季子）

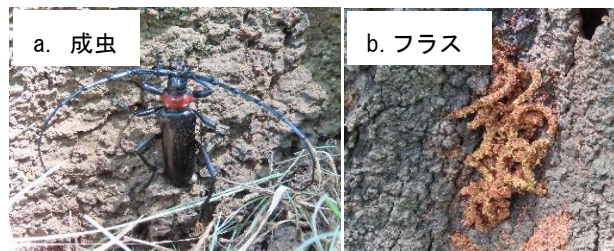


写真1 クビアカツヤカミキリの成虫とフラス
提供：千葉県自然保護課生物多様性センター

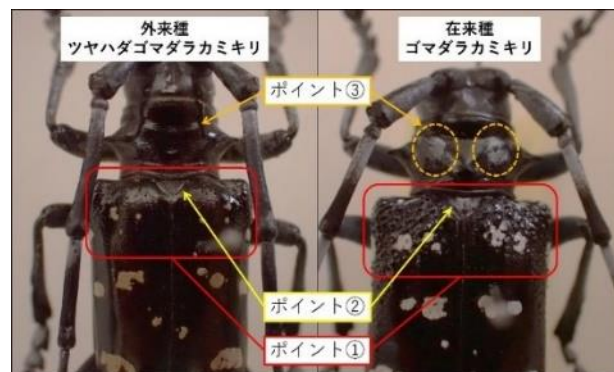


写真2 ツヤハダゴマダラカミキリとゴマダラカミキリを見分けるポイント
ツヤハダゴマダラカミキリは、
① 粒状の突起なし、② 白い毛なし、③ 白紋なし
提供：千葉県自然保護課生物多様性センター

美しい海岸林クロマツの保全のために

千葉県の海といえば、九十九里海岸や平砂浦海岸といった白砂青松の美しい海岸が挙げられます。夏季には県内外からレジャー等の目的で多くの人が訪れ、広く県民に親しまれています。青い海、続く砂浜と背後に広がる松林は本県の大きな魅力の一つと言えるでしょう。

海岸沿いの森林は防風林・防砂林として海から吹く風や飛んでくる砂から内陸部を守る働きを持っており、県民の生活に重要な役割を果たしています。本県でも防風林・防災林の機能を持つ森林を保安林に指定し、維持管理や植栽を行っています。



図1 平砂浦海岸

クロマツは潮風に強く砂地でも生育でき、海岸林を構成する代表的な種の一つです。本県でも海岸林の植栽においてはクロマツを中心に実施しており、千葉県の海岸にとって重要な樹木であるといえます。

ところが現在、千葉県を含め全国の海岸のクロマツでは、マツノマダラカミキリとマツノザイセンチュウにより枯れてしまう「松くい虫被害」が発生しており、本県では被害対策に尽力しています。

森林研究所では、被害にあったクロマツ海岸林で生き残った個体を見つけ、その中からさらに優れた個体を選抜することにより松くい虫被害に強い「マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ

ツ品種」の開発を行ってきました。

また、県内外のマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ品種を集めて植林し、採種園として管理しています。採種園で生産されたクロマツの種子は苗木生産者へ配布され、育てられた苗木は海岸等へ植栽されています。

近年、クロマツ採種園に新たな脅威が迫っています。北米原産のマツヘリカメムシは2008年に東京で初めて確認され、現在分布が拡大しています。本種はクロマツ球果を吸汁し、種子の充実率や発芽率を大きく低下させます。いくつかの県で被害が出ており、本県の採種園でも近年確認されました。まだ大きな被害は確認されていませんが、状況を注視しつつ対策を検討しています。

加えて、ニホンリスによる種子の食害も危惧されています。令和5年度にクロマツ採種園内でニホンリスによるものとみられる球果への食痕や個体の目撃例があり、採種時期までに多くの球果が食害を受けました。年によって被害状況が大きく異なるため、今後も動向を調査し必要な措置を検討していきます。

(研究員 坂巻孟)



図2a: 健全なクロマツ球果

b: ニホンリスによるクロマツ球果への食痕

山武林業とサンプスギ

皆さんは、山武林業を知っていますか？山武林業とは、千葉県の北総台地に位置する山武市を中心とした地域（山武地域）において行われてきた、木材生産を目的とした森林の利用形態のことです。17世紀頃に九十九里浜で盛んになったイワシ漁の漁船の材料として、スギ材の需要が高まったことをきっかけに始まったと考えられています。山武地域は年間降水量が少なく、本来はスギの生育に不向きな乾燥した土地で、先人たちが独自の育林方法を生み出すことによって発展させてきました。具体的には、先にマツを植えて育成し、その樹下にスギを植えることで、スギの生育環境を緩和する二段林（複層林）造成が行われ、マツは浜薪と呼ばれる燃料として、スギは前述の船材として活用される経済的価値の高い育林手法がとられてきました。また、江戸へ向けた建築材及び建具材の供給地としても発展してきましたが、その後の時代の変遷によって木材需要等も変わり、現在の森林の姿になっています。

ところで、山武林業で古くから育てられてきたスギの品種の1つに、サンプスギがあります。この品種は初期成長が良く、その樹幹はまっすぐで、円柱に近い先細りの少ない形状をしており、心材（材の中心の部分）の色が淡い赤色を呈するという特徴があります。また、発根性が良いため、挿し木という手法で増やすことが容易です。挿し木は、親木から枝を切り取って土等に挿して増やす方法で、いわゆるクローンですので、親と完全に同じ形質を引き継ぐことができます（写真1）。これらの特徴を持つサンプスギは、優良な木材を生産することを目的に広く植えられてきました。さらに、スギ花粉症の原因となる花粉を飛ばす雄花をほとんどつけない特徴を持っています。

ひあかがれせいみぞぐされびょう

一方、サンプスギは、「非赤枯性溝腐病」（以下、

「溝腐病」とします。）という病気に罹りやすいという弱点があります。溝腐病は、枯れた枝が落ちて生じる落枝痕等からチャアナタケモドキという菌類が侵入し、形成層を壊死させ、幹に縦長の溝を生じさせます。これにより、木材としての価値が著しく低下してしまいます（写真2）。

溝腐病の被害現状等を踏まえると、今後、サンプスギを植えていくことは困難ですが、サンプスギを研究材料として、溝腐病に抵抗性がある品種を明らかにし、山武林業を含む県内の林業に貢献できるよう研究を進めていきたいと考えています。

（研究員 植竹宗雄）



写真1 樹形がよく揃っているサンプスギ林



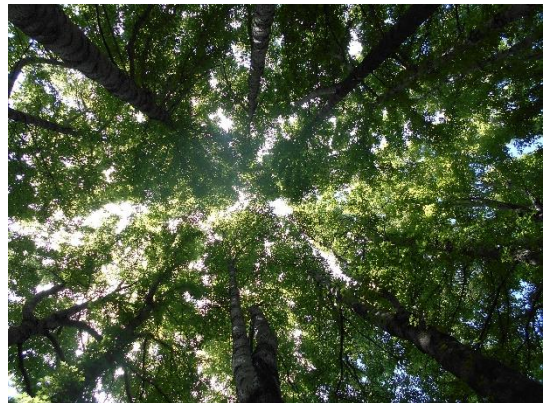
写真2 非赤枯性溝腐病の被害木

森林研究所の動き

主な会議・行事（令和7年6～8月）

- ・ 6月5日 関東森林学会第15期（2025年度）第1回役員会がウェブ会議で開催され、宇川主任上席研究員、小清水研究員が出席しました。
- ・ 6月9日 令和7年度関東・中部林業試験研究機関連絡協議会総会が東京都で開催され、先崎所長が出席しました。
- ・ 6月10日 関東森林学会第15期（2025年度）第1回幹事会がウェブ会議で開催され、宇川主任上席研究員が出席しました。
- ・ 6月11日 令和7年度千葉県野生鳥獣対策本部野生鳥獣害研究チーム第1回推進会議が千葉市で開催され、先崎所長、小清水研究員が出席しました。
- ・ 7月1日～4日 森林保護管理（病虫害）研修が東京都で開催され、田邊研究員が出席しました。
- ・ 7月3日～4日 令和7年度関東・中部林業試験研究機関連絡協議会の「多様な目標林型に対応した森林施業技術に関する研究会」が東京都で開催され、小清水研究員が出席しました。
- ・ 7月16日 第1回クビアカツヤカミキリ防除対策強化検討会関東圏域分科会がウェブ会議で開催され、田邊研究員が出席しました。
- ・ 7月17日 林業職員研修（ドローン初心者）が森林研究所で開催され、福原研究員、黒瀬研究員が講師を務め、林業関係職員19名が受講しました。
- ・ 7月17日～18日 令和7年度関東・中部林業試験研究機関連絡協議会の「次世代育種・優良種苗研究会」が長野県で開催され、坂巻研究員が出席しました。
- ・ 7月23日 林業職員研修（ドローン経験者）が森林研究所で開催され、福原研究員、黒瀬研究員が講師を務め、林業関係職員14名が受講しました。
- ・ 7月23日～24日 令和7年度関東・中部林業試験研究機関連絡協議会の「森林の持つ公益的機能に関する研究会」が静岡県で開催され、田邊研究員が出席しました。
- ・ 8月1日 令和7年度千葉県野生鳥獣対策本部会議が千葉市で開催され、先崎所長が出席しました。
- ・ 8月6日 令和7年度関東地区特定母樹等普及促進会議がウェブ会議で開催され、宇川主任上席研究員、坂巻研究員、植竹研究員が出席しました。
- ・ 8月12日 林業普及指導事業研修（病虫害）が森林研究所で開催され、宇川主任上席研究員、福原研究員が講師を務め、林業関係職員30名が受講しました。
- ・ 8月26日～27日 令和7年度関東・中部林業試験研究機関連絡協議会の「地域材利活用推進研究会」が新潟県で開催され、黒瀬研究員が出席しました。
- ・ 8月29日 令和7年度千葉県ヒメコマツ保全協議会が千葉市で開催され、先崎所長、田邊研究員が出席しました。

（編集責任 主任上席研究員 宇川裕一）



夏緑樹林の中から